

平成22年5月30日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19530172
 研究課題名（和文）「社会主義経済計算論争」の理論的・歴史的展開の過程とその意義に関する総合的研究
 研究課題名（英文）A Systematic Study of Theoretical and Historical Development and Significance of “Socialist Economic Calculation Debate”
 研究代表者
 尾近 裕幸（OKON HIROYUKI）
 國學院大學・経済学部・教授
 研究者番号：40252837

研究成果の概要（和文）：

「1920年から1949年まで」の「社会主義経済計算論争」の研究では、ドイツ語圏での論争で英語圏での論争を先取りする多様な論点が出されたことを明らかにした。「1950年から1990年まで」の研究では、社会主義経済圏内で「論争」に関連した議論が多く行われていたことを明らかにした。「1990年から今日まで」の研究では、旧社会主義経済の崩壊を契機として行われた膨大な数の研究を理論史の観点からの総括を行い、その経済学史上の意義を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

As the result of the study of ‘Socialist Economic Calculation Debate’ from 1920 to 1949, in the debate in the German speaking world, some important points which anticipated the debate in the English speaking world had already addressed. The study of the ‘Debate’ from 1950 to 1990 shows that some important discussions related to the ‘Debate’ appeared in the socialist states. As for the ‘Debate’ from 1990 to the present, many new studies of the ‘Debate’ which were done after the collapse of the former socialist states are surveyed, and their significance for the history of economic thought is clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 ・ 経済学説・経済思想

キーワード：経済学史・オーストリア学派・社会主義・経済計算論争・市場経済・ミーゼス・ハイエク

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の対象である「社会主義経済計算論争」(以下「研究」)に関する研究は非常に多く、その中でもT. J. B. ホッフとD. ラヴォアの研究は世界的水準の研究として認知され、「論争」研究における「古典」としての地位を獲得している。しかし、ホッフの研究は1938年までの「論争」しか扱っていないという時間的な限界があり、またラヴォアの研究は英語圏での論争のみを主としてハイエクの議論を中心に総括しているという「偏向」が存在する。

(2) 本研究では、「論争」の時間的視野をその開始から今日までとし、それを1920年-1949年(ミーゼスの問題提起からバークソンによる総括まで)、1950年-1990年(社会主義経済の発展から崩壊まで)、そして1990年以降今日までという3つの時期に区分し、それぞれの時期における「論争」の理論的・歴史的展開の過程を詳細に整理してゆく。こうした時間的視野での研究は世界的にも皆無である。

(3) また本研究では、「論争」が英語圏だけのものではなく、ドイツ語圏やスラブ語圏(ロシア語圏)、そして日本においても行われたことを文献に基づいて実証する。特に、山本勝市の1932年出版の『経済計算』は世界で最初に書かれた「論争」に関する研究書であり、そうした日本人の貢献は世界の経済学史研究者には未知の事実である。

(4) 本研究では、「論争」の地理的範囲を従来の諸研究よりも広げ、「論争」が英語圏という局所的なものではなく、日本を含む多くの国々で行われた大域的なものであったことを実証的に明らかにする。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、「論争」の理論的・歴史的展開の過程を詳細に整理し、それに基づいて「論争」の経済学史上の意義を現代経済学の観点から明確にすることである。

(2) (1)の目的に加えて本研究では、これまで十分に行われていない「論争」関連文献の整理・保存、そして「論争」に関する国内外での研究で看過されている日本人研究者の「論争」への重要な貢献について明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 平成19年度

①「1920年から1949年までの『論争』」について研究を行った。従来の「論争」の研究ではドイツ語圏での「論争」の検討がほとんど行われておらず、平成19年度の研究の重点もこの点におかれた。

②ドイツ語圏での「論争」で最も重要な役割を果たしたK. ティシュの博士論文(1932年ボン大学提出)を複写をボン大学図書館で行った。また、ヒルスデール大学図書館(アメリカ合衆国ミシガン州)に保存されている「ミーゼス文庫」でミーゼスが収集した文献の調査・資料収集を行う予定であった。

(2) 平成20年度

「1950年から1990年までの『論争』」について研究を行った。具体的には、現実の社会主義経済が直面した問題や改革の試みと「論争」との関係性を明確にした。

(3) 平成21年度

「1990年から今日までの『論争』」について研究を行った。旧ソ連を代表とする社会主義経済の崩壊を契機として「論争」への関心が再度高まり、膨大な数の研究が行われた。平成21年度研究では、最近の「論争」研究の総括を行い、その経済学史上の意義を明らかにした。

4. 研究成果

(1) 「1920年から1949年までの『論争』」についての研究では、従来の「論争」の研究で看過される傾向があったドイツ語圏での「論争」の検討を重点的に行い、ドイツ語圏での論争で非常に多様な論点が出されたこと、その中のいくつかは英語圏での論争を先取りする内容のものであったこと、特に、ドイツ語圏での論争において、客観的価値論から主観主義価値論へ議論の理論的な基礎が決定的に移行したことを明らかにした。

(2) 「1950年から1990年までの『論争』」についての研究では、社会主義経済の発展に伴い社会主義経済の可能性自体をめぐる「論争」が表面上は「衰退」傾向にあったものの、実際には多くの問題を抱えていた社会主義経済の実態を反映して社会主義経済圏内で「論争」に関連した議論が多く行われていたことを明らかにした。また、現実の社会主義経済が直面した問題や改革の試みと「論争」とが密接に関係していたことを明らかにした。

(3) 「1990年から今日までの『論争』」についての研究では、旧ソ連をはじめとする旧社会主義経済の崩壊を契機として「論争」への関心が再度高まりをうけ実施された膨大な数の研究を理論史の観点からの総括を行い、それが経済学史上において「論争」を再燃させるとともに、非対称情報の経済分析等の最新の理論成果を取り入れた比較体制分析を生み出したという意義を明らかにした。

(4) ドイツ語圏での「論争」を知る上で重要なK. ティシュの博士論文「中央集権的に組織された社会主義共同体における経済計算と分配」の一部を翻訳し、

電子ファイル化した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

- ① 尾近裕幸, 「K. ティシュの経済計算論」, 経済学史学会, 平成20年5月24日, 愛媛大学.
- ② 尾近裕幸, "Japanese Contribution to the Calculation Debate: K. Yamamoto's *Economic Calculation*" オーストラリア経済思想史学会, 平成21年7月17日, ノートルダム大学, オーストラリア.
- ③ 尾近裕幸, "Mises and Kantorovich on Economic Calculation" ヨーロッパ経済思想史学会, 平成22年3月27日, アムステルム大学, オランダ王国.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾近 裕幸 (OKON HIROYUKI)
國學院大學・経済学部・教授
研究者番号：40252837

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：